

志津見ダム水源地域ビジョンの今後の予定について

平成27年以降のアクションプラン計画（案）

平成26年12月16日

志津見ダム水源地域ビジョン 平成24～26年度の総括および平成27年度の実施内容(案)

アクションプランの凡例: 総括及び意見交換ポイントの凡例

■ H25当初計画プロジェクト ●H24～26 総括

■ H25以降追加プロジェクト ○H26.11.25活性化委員会 意見交換会での主要意見

黒地:継続内容
赤字:H27新規内容

基本方針	テーマ	分類	分類	実施時期	アクションプラン	H24～H26の総括および意見交換会でのポイント	判定	H27実施内容(案)	実施主体(案)
1. 美しいふるさとづくり	Ⅰ. 水源地域の景観形成	1. 水源地域の景観向上	①ー1	先行	河川と道路の景観保全活動	●フラワーイベント会場や周辺道路184号においては、国、県、町、地域の連携により、定期的に除草作業ができ、周辺地域を訪れる「おもてなし」として、道路周辺の景観を維持・形成することができた。 ●今後は、持続的に景観が維持できるような取組として、家畜の放牧による除草の仕組みづくりを進め、貯水池内の荒れたゾーンの景観維持に努める。 ●H24年度より始めた企業CSR活動では、町内及び下流域の企業から多くの方に参加していただき、紅葉スポットとして取り組んでいる「彩りの森」の景観形成に貢献し、今後の可能性を感じた。 ○除草作業は、その最後に参加者全員でお弁当を食べるなど、地域住民と参加者の交流イベント的な要素を持たせてはどうか。 ○放牧は牛のイノシシ駆除、羊の除草効果が期待でき、さらに観光客等のダム周辺の立寄り機会としても期待できるので、早期実現を望む。 ○ライトアップは、点的な展開から線的、面的な展開へと広がりを持たせ、集客効果の向上を図ってはどうか。	継続	1. 管理区分に関する協議 2. 志々の景観を守り育てる会による除草(継続) 3. 企業CSRの継続 4. 同時開催(除草作業の交流事業化)の検討	国・県 町
			①ー2	先行	クリーンウオーク(景観保全活動に含む)		継続	企業CSR活動において、彩りの森ウォーキングコースで紅葉を眺めながら、ごみ拾いを行っている。今後は、明剣神社や彩りの森の主旨を語ることができる人をメンバーに加えて、ごみ拾いを行っていく。	町
			①ー4	先行	草刈り研修会(景観保全活動に含む)		継続	男女が参加できる研修会を実施	町
			①ー3	先行	町有林による景観美化		継続	林道整備と調整しつつ「元気にする会」等で整備・活用の方向性を協議	町
		2. 牧歌的な風景づくり	②ー1	中期	家畜の放牧		継続	牛のみではなく、羊の放牧の可能性も検討	町
		3. 四季の彩りフラワーバレー	③ー1	中期	夏の花の花壇整備による年間を通じた花畑の創出			フラワーバレーとして、いつ来ても花があるように「菜の花」を試験的に実施予定	
			③ー2	中期	フラワーバレーに山野草鑑賞エリアを整備			志々を元気にする会において検討	
			③ー3	先行	彩りの森の紅葉をライトアップ		継続	1. 引き続いてライトアップを行う(紅葉祭りとの連携) 2. 志津見ダムとの連携(ダムのライトアップを同時期に実施) 3. 夜カフェ等の実施を検討 4. 他ポイントでのライトアップも検討(点から線的、面的な広がり)	町・国
			③ー3	追加	志津見ダムのライトアップ		継続	1. 彩りの森ライトアップとの連携 2. 紅葉時期だけでなく他の季節でも実施することを検討 3. 看板等の設置により通行者に対しPRを実施	国
			③ー4	中期	一軒一鉢運動を展開			飯南町全体の事業としてわが町は美しく推進事業を実施しており、花の苗の配布を行っている。自治会等団体を対象とした取り組みとなっており、本事業担当課と連携を図りながら、検討する。	
	Ⅱ. 自然環境の保全活用	4. 神戸川エコロジカルネットワーク	④ー1	先行	水生生物による簡易水質調査の実施	●周辺整備施設での自然体験や環境学習につながる取り組みとして、神戸川での水生生物調査(H24-H25)や神戸川の葦部分除去を行い、子ども達が川に入る機会を作った。 ●今後は子ども達が、いつでも川で遊べるような環境を作っていく必要がある。 ○昨今の子ども達には、川や山の魅力、知恵、危険性などを知らないといった“自然離れ”を感じるので、子どもの世代に応じた川遊びができるなど、自然体験を通じたふるさとづくりを進めて欲しい。 ○川の流速が早い、葦が生茂っているなど、川の流れや植生が変化したことにより、水遊びができなくなった。 ○地域住民や水辺利用者の意見を取り入れた取組が重要であり、適宜、プランの見直しや意見を組込めるような仕組みづくりと実践が必要。	継続	1. ヤマメの生育調査にあわせ、流域住民と交流ができる行事を企画 2. 下流域住民の参加増を目指す 3. 川遊びをしながら学ぶような企画を検討	国・県・町
			④ー2	先行	自然観察会		休止		
			④ー3	先行	山の恵み学習会(地域懇親会テーマ)		休止		
			④ー4	早期	水辺で遊べる場づくり(既存施設の活用)		継続	1. 水辺利用者との意見交換会の継続 2. 河床整備、除草等適正な管理を行う	国

アクションプランの凡例:

■ H25当初計画プロジェクト
■ H25以降追加プロジェクト

総括及び意見交換ポイントの凡例

●H24～26 総括
○H26.11.25活性化委員会 意見交換会での主要意見

黒地:継続内容
赤字:H27新規内容

基本方針	テーマ	分類	分類	実施時期	アクションプラン	H24～H26の総括および意見交換会でのポイント	判定	H27実施内容(案)	実施主体(案)
2. 明るく元気で豊かなふるさとづくり	Ⅲ. 水源地域の活性化	5. 神戸川「川の駅」づくり	⑤ー1	先行	青空市の活性化	●うぐいす茶屋の売上は無料高速道路開通後も、あまり影響を受けずに維持することができている。	継続	1. 販売コーナーの商品を充実させる 2. 加工品の種類の充実を図る 3. 話題性と必然性を持った商品の検討	町
			⑤ー2	中期	憩いの場の充実	●食事の評判もよく、集客につながっているが、青空市の売上が少し落ちている。		ダムが多目的広場「志々さくら広場」を活用したキャンプなど、町内外の憩いの場として検討。 伐採木を活用したベンチ、積み木の製作。	
			⑤ー3	中期	特産品の開発	●地域の特産品としては、うぐいす茶屋ですぐに完売する豆腐がある。しかし、生産能力に限界があり、供給が追いつかない。		1. うぐいす茶屋での加工商品の検討。米価減に対応するため、米粉を活用した商品化を検討。 2. ダム堤体内での酒貯蔵を試行。(H26年度は堤体内の環境調査(温度測定・分析)、既存酒の貯蔵を試行。)	
		6. 地域コミュニティの強化	⑥ー1	先行	地域懇親会の開催	●今後は、コメの価格が下落している現状もあり、米粉を活用した加工商品の開発を進めていく。 ●手作りで、多くの野菜が並べられるような棚を作っている。	継続	1. 地区全員が出られる機会をつくる 2. 取組に対する情報共有 3. ダム資源や素材(駐車場など)の有効活用を検討	町
			⑥ー2	中期	七夕祭り	○青空市への参加者は増加しており、当初は試験販売を意図したが、実際には住民の“やりがい”の場となっている。		11月の家庭の味祭りでは、竹筒へキャンドルを設置した竹灯籠を夜に設置した。 七夕に限らず、さまざまな活用を検討。	
		7. 志津見湖のイメージアップ	⑦ー1	先行	イメージキャラクターの活用(地域懇親会テーマ)	○「人を呼び込むためにはどうしたらよいか」といった発想により、物販に結びつけて地域活性化を狙う。話題性を狙った「ダム貯蔵酒」は早期実現を期待する。	継続	1. 地域懇談会で利用に対する議論を行う 2. 看板、広報物へ掲載しPRを行う	国・県・町
		8. 自然に優しいエコ活動	⑧ー1	中期	水源地域の自然に優しいエコ活動の展開	○ダム湖周辺の紅葉や景観が楽しめる散策路の整備、あるいはトイレで立寄り客も多いダム事務所横の駐車場を活用した物販など、ダムの資源や素材を有効活用した展開を検討し、実施した方がよい。		町事業との連携を図る必要がある。緑の分権改革推進事業や環境活動推進事業などとの連携しながら、内容を検討。 小水力発電においては、導入前に管理者の確保及び費用対効果を調査が必要。	
	Ⅳ. 地域の有する歴史文化の継承	9. 伝えようふるさとの歴史と文化	⑨ー1	先行	食文化伝承レシピの作成	●地域で伝わっている食文化を多くの方へ知ってもらうため、「家庭の味祭り」を実施。町内外から多くの方が毎年来訪し、交流を行っている。	継続	1. 家庭の味祭りを引き続き開催する	町
			⑨ー2	後期	遺物の展示	●昨年、これまでの家庭の味祭りの出品者のレシピをまとめた「レシピ集家庭の味祭り本」を発行し、食文化継承につながる取組を行った。			
			⑨ー3	先行	民具の展示		継続	1. うぐいす茶屋で引き続き展示 2. イベント等での展示を行う(民具の実演等展示に工夫)	町

アクションプランの凡例:

■ H25当初計画プロジェクト
■ H25以降追加プロジェクト

総括及び意見交換ポイントの凡例

●H24～26 総括
 ○H26.11.25活性化委員会 意見交換会での主要意見

黒地:継続内容
 赤字:H27新規内容

基本方針	テーマ	分類	分類	実施時期	アクションプラン	H24～H26の総括	判定	H27実施内容(案)	実施主体(案)
3 ・人が集まるふるさとづくり	V. 水源地域のピーアール	10. 水源地域の修景	⑩ー1	中期	サインの設置による水源地域の明示	●前期の計画ではプランがないが、志津見ダムがあることを下流域の方へ知ってもらうことが最優先であり、佐田町付近に志津見ダムの案内標識を設置した。		水源地域のPR用看板の検討。 志津見ダムの案内看板は、佐田町内に県が設置(H26)	
			⑩ー2	中期	草花・花木植栽による水源地域へのゲートづくり			現在、うぐいす茶屋にプランターを集めて、花の創出を行っている。少しずつ範囲を広めていく。	
	VI. 上下流の交流	11. 湖畔イベントの開催	⑪ー1	先行	ポピー祭り・コスモス祭開催	●ポピー・コスモス祭は豪雨体験コーナー、ダム巡視体験、やまめのつかみどりなど、他地域にはない地域資源を活用した特長のある企画等により、松江自動車道無料高速のが開通後も入込客が増加し、交流に繋がっている。 ●下流域の住民を対象にダム、ガラスハウス、クラインガルテン、やまめの溪を活用した体験イベントを実施し、参加者や対応する地元からもよい評価をいただいている。今後は、イベント以外でもふらっと遊びに来ていただけるようなきっかけづくりが重要である。	継続	1. ダム見学会、巡視体験等引き続き実施 2. 降雨体験装置による豪雨体験 3. ダムカードを活用したイベントを新規開催 4. 地元住民向け巡視体験会の継続 5. 地元小学校や他団体の行事等との連携(同時開催)を検討	国・県・町
			⑪ー2	後期	野外コンサート	○ポピー・コスモス祭りはダム完成の象徴であり、年に2回のイベントはダムの意識付けに効果を発揮している。しかし、地域住民が高齢化し、イベント時に人手不足が生じるとともに、イベントに出向く際の交通手段がないなどから、無関心化の進展が危惧される。		1. 若者や愛好家など「やりたい事」を実現するイベント企画を検討	
			⑪ー3	後期	ナイトバザール				
			⑪ー4	先行	志々ファンクラブ		継続	1. 積極的な情報発信の実施 2. 会員の具体化の検討を行う(若者や愛好家の参加促進)	国・県・町
			⑪ー5	早期	シンボルオブジェ作り	○祭りの維持に向けては、地域の他の活動や団体等と連携したイベント企画も取り込み、小学生や高校生の発表など、会場に来る、準備・後片付けを手伝う必然性までも考慮した展開が望ましい。 ○広場や湖面の利活用に向けては、若者や愛好家などの「やりたい事」を実現してあげるような企画・イベントが望ましい。例えば、ラジコンボートやカヌーの他、駐車場でのドリフトやミニバイク大会、未利用散策路のサイクリングコース化など。		1. 「かかし」による地域の魅力向上と交通安全対策の検討	
		12. 湖面イベントの開催	⑫ー1	先行	湖面巡視体験		継続	1. イベント以外で地元住民向けの体験会の継続	国・県・町
			⑫ー2	先行	カヌー教室(PTA対象)		継続	1. 愛好家との現地(適地)調査・意見交換会の開催	国・県・町
			⑫ー2	中期	カヌー教室(一般対象)			湖面活用してカヌー教室を開催するためには、拠点として活動してくれる団体を確保する必要がある、さまざまな団体に声を掛け、試験的に活用してもらう。	
			⑫ー3	後期	魚釣り大会				
			⑫ー4	中期	ラジコンボートレース大会		継続	1. 愛好家との現地(適地)調査・意見交換会の開催	町
		13. 志々のみどころ紹介	⑬ー1	中期	手作り見どころ案内板	●フォトコンテストは継続的に開催し、イベントの様子や紅葉スポットなど、さまざまな写真をいただいた。 ●当該地域を訪れた方への情報提供をする地元ならではのマップについては、実施することができなかった。現在、わっしょい志々会において、そのような取り組みを始めている。		志々地区内の史跡、巨木などへ手作りによる案内を検討。	
			⑬ー2	先行	マップ(パンフレット)づくり(地域懇親会テーマ)		継続	1. 地域懇親会の意見を踏まえ対応	国・県・町
			⑬ー3	先行	フォトコンテストの開催		継続	1. 年間を通した募集を引き続き行う	国・県・町
			⑬ー4	追加	志々のみどころ紹介		継続	1. ホームページの改良(ダム周辺の見どころの紹介、周辺イベントの紹介) 2. 他ダムとの連携(周辺ダムの紹介) 3. ダムのビューポイントの整備と紹介	国・県・町
			⑬ー5	追加	水源地域のサイン計画		継続	1. 地域懇談会、元気にする会等でサイン計画の検討を行う	国・県・町
		14. 田舎ツーリズムの展開	⑭ー1	中期	田舎体験	●下流域の方を対象にクラインガルテンでのそば打ち体験やヤマメの学習、トマト収穫体験など、地元の方に各コーナーで対応していただくことで実施できた。今後は、注連縄づくり、豆腐づくりなど、地元の方を講師とした体験メニューを増やしたい。 ●クラインガルテンでは、ガルテナーと地域のイベントとして、田植えイベント、稲刈り及びよずくはでづくり体験など実施しているが、今後、下流域の方でも参加できるような仕組みを検討し、活性化につなげたい。	新規	1. インフラツーリズムの推進 2. 「okutabi」・「もりのす」との連携	国・県・町
		15. 他地区との連携	⑮ー1	中期	広域的な連携検討	●広域的な連携としては、尾原ダムと上流のダム同士連携を行い、共同HPの開設やパネル展示、企業CSRの協力などを行っている。今後は、三瓶周辺との連携を図り、大きな発信をしながら、入込客のアップにつなげていく必要がある。	継続	1. 周辺地域(三瓶山周辺)への志津見ダムのPRを行う 2. 斐伊川下流域、尾原ダム地域との交流は引き続き行う	国・県・町